

『足跡』

コロナ予防策の1つとして、下校時、全校が揃ってからの諸連絡や下校の挨拶をして解散する一斉下校ではなく、分団が揃ったら担当の先生に挨拶をして分団毎に下校する形に変えて随分経ちます。

一斉下校の時には気づきませんでしたでしたが、分団毎の下校になって気づいたことで、微笑ましくもあり、興味深いことでもあります。

これは、天候、何よりグラウンドコンディションが大きく影響します。

雨でグラウンドがぬかるみ過ぎている時は子どもたちが迂回していくため見られません。また、良い天気が続いている時も見られません。子どもたちがこのくらいだったらグラウンドを縦断できると判断する、少しばかりグラウンドが緩い時が絶好の機会です。

これは、本郷分団15名程度がグラウンドに残していく『足跡』です。自らの『足跡』を見る機会なんてほとんどないと思います。きっと子どもたちも、わざわざ振り返って見ることはないと思います。まして、足跡を意識して歩くこともないでしょう。

その足跡が実に面白いんです。けやき広場の階段を下りてグラウンドを縦断し、南門を出ていくルートの中で、集団としての蛇行の度合いがとても大きい時と小さい時、個のバラつきがある時など様々です。

出口の南門だけを見て歩を進めれば、もっと最短距離を進めるでしょう。でも、先頭の分団長が周りに気を配ったり、いろいろな話をしたりしていくことで、南門という出口を認識しながらも、いつの間にか蛇行しているのかもしれない。

これは、人生とも重ね合わせることができます。自分の目標に向かって、まっすぐ最短距離で進んで実現できる人もいます。しかし、ほとんどの人は、様々な挫折や思い通りにならない事態に直面し、遠回りをしながらも頑張ろうとするルートを歩みます。確かに最短ルートで目標を実現する人は素晴らしいですが、遠回りルートを歩んだ人はそれが人生経験となり、決して最短ルートを歩んだ人に引けを取らない生き方ができると思います。

(少し発展しすぎました。)



(昨日の『足跡』の蛇行曲線はあまり大きくなかったです。)